

# 19年07月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ  
代表 伊藤 武

7月末主要指標（前月末比%）

- ダウ工業株価平均 2684.27 (+1.0%)
- S&P500種株価指数 2980.38 (+1.3%)
- NASDAQ株価指数 8175.42 (+2.1%)
- 日経平均株価 21521.53 (+1.2%)
- 米ドル対円 109.19 (107.89)
- ポンド対円 132.4 (137.0)
- ユーロ対円 120.6 (122.7)
- 金 1421.10 (+0.5%)

大変お世話になっております。

7月は米国FRBによる政策金利の引き下げ期待で世界株価は緩やかな上昇基調を維持しました。同時に量的緩和もFRBによる米国債700億ドルの買い入れを控え緩和姿勢を明確にしました。但し、月末発表した政策金利は2.00~2.25%とし、一部0.5%の引き下げ期待に至らなかった為、株価は下落に転じました。今回の利下げは米国経済の持続成長に対する保険であるとパウエル議長は説明しました。その背景には、世界経済の減速基調が鮮明となり、IMFは4月に引き続き2020年及び2021年の世界経済予測を0.1%下方修正しています。とりわけ中国は6.2%成長に減速し、その影響は世界に波及します。

世界的金融緩和策実施の結果、発行残高の1/4に相当する13兆ドル相当の債券がマイナス金利となっています。債券投資の行き場がなくなると、配当利回りを提供する株式の魅力が高まります。と同時に貿易体制や地政学的要因は益々不穏な情勢となっています。英国ではブレクジットの先鋒に立つジョンソン氏が首相に就任し、10月末のEU離脱を控え、合意なき離脱も辞さない姿勢を表明しました。となると英国は以降不況に突入する可能性が高まります。英ポンドは急落するに至っています。イラン情勢も悪化の方向をまい進しています。米国の経済制裁はイランを窮地に陥れています。それに加えて、米対中国貿易交渉は難航し、トランプ大統領は9月

から3000億ドルに対する中国製品に対し10%の関税を実施することを発表しました。諸々の事態を反映し、金価格は6年来の高値を更新しています。

リーマンショック以来、世界の株価は大幅上昇していますが、米国だけは史上最高値を更新続け、一人勝ちの様相を示しています。大きな要因として、米国はいち早く積極的な経済政策を導入し、緩慢ながらも経済成長は他国を大きくリードしています。それと同時に構造的要因として、米国企業の寡占化とGAFに象徴される一握りの企業群が突出した企業収益を享受しています。ITを中心にこれら企業の収益源は国境を跨り独禁法対象にならない地位を保持してきました。欧州を中心に罰則や今後はデジタル税導入を検討しています。しかし、これら従来企業形態と異なる企業群に対する独禁対策はようやく真剣に対応する方向に転じましたが、独禁法対策が牙を剥くには数年の歳月を要するでしょう。

7月には、米国産業の寡占化問題と、金の動向に関するレポートを執筆しました。添付いたしますので、ご関心があればご査収ください。

引き続きよろしくお願いいたします。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。